

国民スポーツ大会における暑熱対策に関する対応方針

1. 趣旨

本方針は、日本スポーツ協会(以下「JSP0」という。)が定めた「スポーツ活動中の暑熱対策に関するJSP0 対応方針【令和 6(2024)年 6 月 3 日付】」に基づき、国民スポーツ大会における基本的な暑熱対策の考え方について示すものである。

なお、本方針を基に、開催都道府県ごとに実情に合わせた具体的な対応をとるものとする。

2. 基本的な対応

大会主催者は、主催者間で連携・協力をしながら次の取組を推進する。

(1)脱水、塩分不足、血流循環不全や体温上昇を防ぐ取り組み

1)暑さ指数(WBGT)や熱中症警戒アラートを活用した大会の運営

2)水分や塩分補給ができる環境の整備

3)積極的に身体冷却を行える環境(可能な限り複数の冷却方法)の整備

例 外部冷却：アイスパック、クーリングベスト、アイスバス、ミストファン 等

内部冷却：水分補給、アイススラリー 等

4)人の滞留や炎天下での待機時間を減らすための案内表示や日除けの休憩所の設置

5)関係者自身が行う対策(暑熱順化や帽子・服装などの工夫)の積極的支援

※「関係者」とは、選手、監督、審判、役員、観客、ボランティア等とする。

(2)救護体制の確保と緊急時対応計画の策定

1)救護所等において、熱中症に特化した対応※を速やかに実施できるような体制の構築

※救急車の要請→涼しい場所への避難→身体冷却

2)経口補水液などの熱中症対策用品の配置

3)会場毎に策定する緊急時対応計画へ熱中症に関する対応を併記

(3)熱中症予防に関する周知、啓発

1)熱中症予防の知識や大会時における対策に関する周知

2)体調管理(睡眠や食事、暑熱順化含む)の徹底及び自身による大会参加 1 週間以上前からの体調チェック(体温や特記事項等を記録)の実施(様式は問わず提出は不要)

3. 大会期間中の対応

大会主催者は、主催者間で連携・協力をしながら次の取組を推進する。

(1)競技会

1)各会場において定められたタイミングや場所・方法により、暑さ指数(WBGT)の測定・記録を行う。

2)JSP0 作成の「熱中症予防運動指針」、中央競技団体の定める方針(別表参照)又は中央競技団体において運用上適用するルール等に基づき、競技規則等に則った対応を行う。

- 3) 競技の中止に伴い、競技日程(開始・終了時刻、試合数、実施会場等)の変更が生じ、競技会の全日程を終了できなかった場合の順位・成績の取扱いについては、2024年3月19日付「国スポにおける災害時等対応について」の内容に基づくものとする。
- 4) 当日の気象予報、暑さ指数(WBGT)の測定結果に関わらず、大会関係者の不調による競技の中断や中止等に伴う対応については、予め中央競技団体と開催都道府県競技団体が確認した方針や競技規則等に則って対応する。ただし、事案の発生状況や競技会の進行状況等を踏まえ、可能な限り柔軟な運用を行うものとする。
- 5) 競技中に熱けいれんや熱疲労の症状(頭痛、めまい、吐き気、嘔吐、脱力感、倦怠感など)を自覚した際には、審判に症状を伝えるとともに、水分補給や休憩などの必要な対応を求めるよう周知する。なお、選手が熱中症の症状を訴えてきた場合には、直ちに審判は試合を止め、競技会役員は救護員と一緒に選手の様子を確認すること。

(2) 式典

「2. 基本的な対応」を行う。

なお、式典の場合は競技会に参加する選手と異なり「一般観客や式典出演者を含む参加者の年齢層が幼児から高齢者まで広く個人差が大きいこと」や「暑熱に対応する順化が十分でない可能性があること」から、積極的な情報提供や注意喚起の実施を強調して行う。

4. 方針の変更

本方針は国民スポーツ大会委員会の決議によって変更することができる。

5. 附則

本方針は、令和7年8月20日から施行し、第79回大会から適用する。

<別表> 暑さ指数(WBGT)の値を基にした中央競技団体の定める方針

2025 年 8 月 20 日時点

	競技	測定条件	規程等	概要	
1	サッカー	試合開始前、試合中	JFA 熱中症対策ガイド ライン	【試合中実測値が WBGT31℃以上になった場合】 試合を中止・中断又は延期する ※ガイドラインで定めた対応を実施した場合に限り、主催者判断で試合を実施することができる 【主な対応内容】 試合時間の短縮、ハーフタイムの時間の延長、クーリングブレイクまたは飲水タイムの採用	
		(開始前) ピッチ上 (試合中) ピッチに近い場所			
2	テニス	大会開催中、1 時間、または、30 分毎	熱中症予防 JTA 公式テ ニストーナメント開催 ガイドライン	WBGT 値	対応
				32.2℃以上	プレーの一時的中止を検討する
		会場内の適切な位置		30.1℃以上	ヒートルールの適用
				28℃以上	頻繁な休息（水分・塩分の補給、体表冷却手段の提供）
3	ローイング	会場内の適切な位置	大会開催時の安全に関 するガイドライン(2018 年改訂	WBGT 値	対応
				31℃以上	原則として、すべてのレースを中断する
				28℃以上	原則として、若年者や高齢者など体力の低い者のレースを中断する。
				※単なる中止判断ではなく早朝や夕刻への時間帯変更など柔軟な検討を行う	
4	ホッケー	試合開始直前及び 3Q 開始直前	ホッケー競技における 熱中症対策ガイドライ ン	WBGT 計の値に従い、インターバル時間延長及び試合の実施について対応	
		ピッチ上、黒球が日影にならない		WBGT 値	対応
				35℃以上	TD と大会関係者と協議し対応を決定
				31℃以上	インターバル 4 分＊状況によりウォーターブレイクの適用も考慮
				28℃以上	インターバル 3 分

	競技	測定条件	規程等	概要	
5	軟式野球	試合前・3回、5回、7回終了後・試合終了後の5回	<u>JSBB 熱中症予防対策ガイドライン</u>	WBGT 値	対応
		35℃以上		試合の中止や順延を判断	
		33℃以上		試合の中止や順延、時間変更を判断	
		31℃以上		原則、試合は中止、中断、順延とする ※JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）の大会運営側の対応ならびに試合中のクーリングブレイクの確保が十分に取られている場合は主催者の判断において実施することができる ※試合中に WBGT33℃を超えた場合は、試合を中止または中断する	
		28℃以上～31℃未満		9回制の場合は、3回・5回・7回終了後に5分間のクーリングブレイクを設ける。※7回制は、2回・5回終了後に設ける。 ※JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）に準じて試合を実施することができる	
6	ソフトボール	試合前、2回、4回、試合終了後の4回	<u>ソフトボールにおける熱中症予防対策ガイドライン</u>	WBGT 値	対応
		35℃以上		試合の中断、延期、中止等を検討する	
		31℃以上		試合は原則中止、中断、延期とするが、熱中症予防対策を十分に講じている場合には、主催者の判断において実施することができる	
		地上から 1.1m～1.5mの高さ		28℃以上	原則として、2回、4回、6回終了時に、原則 5分間の給水・身体冷却タイムを設ける
7	ゴルフ	常時観測(記録は1時間毎)		WBGT33℃以上の場合、原則としてプレーを中断する。 WBGT31℃を超えることが予想される場合、または開催コースから要請があった場合、9ホール後に30分の休憩をとらせる(この休憩時間は規則上のラウンド中となる)。	
		クラブハウス周辺の芝の上でかつ日があたる場所			
8	トライアスロン	競技開始3時間前から競技終了まで30分毎。競技開始1時間前の計測値を公式計測値とする。	<u>夏場のトライアスロンならびに関連イベント実施に際してのお願い</u> <u>(2024)</u>	WBGT28℃以上となることが予想される場合、競技前日の実施検討会議で競技距離の短縮や競技実施内容の検討を行い、最終判断は競技日の競技開始3時間前に判断	
		フィニッシュ地点			

※本表は、中央競技団体の暑さ指数(WBGT)に基づく試合中の対応について、抜粋したものである。

※本表以外の国際競技団体による規則や暑さ指数(WBGT)以外の数値(温度等)により対応する場合がある。